

エムエスピーの履歴書

③

水谷政司

1979年9月にNECよりPC8001というベストセラーパソコンが発売されたことは、古い方ならご存じのことと思います。

歴史アーカイブス

パソコンとBASICという組み合わせで、当時「簡単にコンピュータの利用ができる」というのがうたい文句でした。アメリカでの大流行を受け、日本の電機メーカー各社もこぞってこの分野に乗り出してきていました。

当時のパソコンと現在のパソコンを比較すると、赤ん坊とバリバリの社会人程の差がありますが、現在パソコンは当時より大幅に安い価格で購入でき

価格維持もされていません。何故なのでしょう。

写真は当時のPC8001の拡張構成ですが当時の構成で軽く100万円は超えていました。インテルの言う通り、性能が二倍になっても価格は変わらない

OAの立会人を標榜した理由何故か

「簡単に使えます」を本当のこととするためには？

い(本当は修正回路の性能が二年毎に二倍)との法則なのか予言なのか、この通りの成長を遂げました。それに比べ自動車産業は、この期間の性能と価格の対比からすると考えられないものがあります。パソコンは車と比べ値引き要求が大きく、車のような

パソコンを使いこなす

上で、はソフトウェアが必須です。今でこそOSはウインドウズ、ソフトウェアはパッケージと言われていますが、この当時はパッケージもあまりありませんでした。BASICを覚えることも一般的には至難の

業であった時代でした。

パッケージソフトの走りと言えはワープロソフトや表計算ソフトの時代でしたが、当時はまだ機能不足で、文節変換など全然できず、表計算も25の項目しか取れないなど未熟な状態でした。汎用コンピュータよりはるかに安いパ

ソコンを購入したもののBASICが覚えられず埃を被っているパソコンが多く発生したのもこの時代です。そんな中、簡易言語が多く発表され、簡易言語による機械化がメディアにより大きく宣伝されま



したが、この簡易言語を使いこなせる為の教育機関は皆無でした。

そんな中、あるメディアにて、『提供するメーカーの性善説(BASICにより簡単に使えます)と何とかパ

ソコンを使いこなしたいユーザー(コンピュータ知識に欠ける)』の間で、この利用者を結びつける「OAマッチメーカー」の登場を期待するコラムが掲載されました。当時、簡易言語の普及や簡易言語によるユーザーの問題解決に奔走していた人たちは「こんなことができる会社が本当の会社」であると共鳴しておりました。

私が創業いたしましたのもユーザーの利便性のためマッチメーカーになろうと決意したことがスタートでした。

顧客満足という言葉が無かった時代でしたが、この考え方が社員に浸透しユーザーに寄り添う会社又OAの立会人を標榜する会社として、現在に至っております。

(エムエスピー相談役)